

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 侵襲性糸状菌症の病理画像解析システムの開発』

研究機関名 東邦大学医療センター 大森 病院

研究責任者 病理診断 科 職位・氏名 教授・栃木直文

【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は診断に難渋することある侵襲性糸状菌症の病理診断の補助診断法の開発に利用します。この研究で得られる成果は、今後の侵襲性糸状菌症の病理診断に関する診断精度向上と均霑化、並びに不足している診断病理医への円滑な業務支援につながると考えます。

【他機関への提供】

当機関で取得した試料に関して他機関への提供は行いません。

本研究の解析結果を共同研究機関と共有し、解析結果に関して意見交換をする予定ですが、その場合はすでに個人が識別できる状態の情報は含まれません。

【研究に用いられる試料・情報】

当病院にて外科手術を受けた方と病理解剖を行なった方で、最終的に病理診断にて「侵襲性糸状菌感染症」と診断がついた方を対象として、手術や解剖で摘出した肺組織の残余検体から組織標本を作製して、改めて病理組織学的に検索を行い、病理画像データを用いた補助診断法の開発に利用します。研究に利用する試料・情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除し、性別・年齢・基礎疾患・起炎菌の培養結果・標本保管年数のみと紐付けて管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。なお本研究は他施設共同研究として本邦の複数の共同研究機関と協力して研究を行います。

【試料・情報の取得方法】

対象者：1975年4月～2025年3月までに東邦大学医療センター大森病院において、外科手術を受けた方と病理解剖を行なった方で、最終的に病理診断にて「侵襲性糸状菌感染症」と診断がついた患者様。

方法：手術や病理解剖で摘出した「侵襲性糸状菌感染症」と診断がついた組織標本の残余検体を利用して、病理組織学的な解析をします。また診療録(カルテ)から抽出したデータも解析対象としますが、個人を特定できるような情報を利用した解析は行いません。

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大森病院 研究代表者：栃木直文 役職：教授

【利用する者の範囲】

共同研究機関：がん研究会有明病院 研究責任者：二宮

共同研究機関：市立札幌病院 研究責任者：辻隆裕

共同研究機関：近畿大学医学部 研究責任者：栗原一彦

共同研究機関：刈谷豊田総合病院 研究責任者：伊藤誠

【研究組織、試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

代表施設名: 東邦大学医療センター大森病院 研究代表者: 栃木直文 役職: 教授

本研究に関してご質問のある方、患者様及び代諾者様で試料や情報を本研究に利用することを承諾されない方は、下記へご連絡下さい。患者様及び代諾者様より申し出のあった方の試料・情報は、利用を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター 大森病院 病理診断科
職位・氏名 教授・栃木直文
電話 03-3762-4151 内線 3451